

## 平成26年度埼玉県・オハイオ州機械工学系奨学生レポート 最終

### 「一年を振り返って」

5月2日にフィンドレー大学の卒業式があり、その日をもってフィンドレー大学での全ての行事が終わりました。私はインターナショナルスチューデントで学位を取得していないため卒業式で名前を呼ばれることはありませんでしたが、学位を取得した日本人や多くの友人の卒業を見送れたので十分意義のあるものでした。卒業式後は将来進みたいと考えている大学院見学のためアメリカ各地をまわり、6月1日に帰国しました。

本レポートでは、前半で4月の活動について報告し、後半でこの一年間を通じて学んだことについて報告します。

#### 4月の活動

##### 学会での発表

4月中旬、現地の学生が期末試験に追われる中、私は大学内の学会で発表する機会をいただきました。発表では「職場での異文化間における問題」を扱いました。文化の違いから生じる従業員間の軋轢について、実際に自分が経験・観察した事象を元にケーススタディ形式で発表しました。発表自体は15分と短いものでしたが、準備は3か月ほどかかりました。自分の専門分野とは全く違う分野の論文や文献などを読むことができ非常に刺激的でした。また、学部の授業でアジアの宗教について学んでいたため、その方面から考察することもできました。異文化コミュニケーションに関する論文には自分の経験に合致する記述が多く見られ、学術上のロジックやデータが自分の経験に合致することを非常に興味深く感じました。

##### NBO での最終プレゼンテーション

大学の学会で発表したのと同時期に、ニッシン・ブレイキ・オハイオでの一年間のインターンの成果を発表するプレゼンテーションがありました。プレゼンテーションでは、今まで行ってきた仕事の概要、通年プロジェクトの成果、一年間を通して学んだことなどを発表しました。発表には、オハイオ州政府関係者にも来ていただきました。自分が話したいと思っていた事すべてを伝えることができ、また、通年で行ってきたプロジェクトに関しても高い評価をいただき、満足のいくものでした。

##### オハイオ州副知事への訪問

5月1日、オハイオ州の州都・コロンバスを訪れ、埼玉親善大使としてオハイオ州副知事にご挨拶に伺いました。本来は昨年度のインターン生と同様に知事を訪問する予定だったのですが、大統領選挙の関係で忙しいとのことで、代わりに副知事が対応してくださいました。テイラー副知事はとても気さくな話しやすい女性で、話題は音楽やスポーツなど多岐に渡りました。特に盛り上がったのが大学フットボールの話題でした。ここコロンバスにオハイオ州立大学という、昨年度、全米大学チャンピオンになった大学があり、州における彼らのステータスやその影響力などについて副知事は多く話してくださ

いました。また、私たちのインターン制度について紹介し意見交換をしました。会話中、特に興味深かったのは、オハイオにある日本企業に関することでした。フィンドレー市長とこの話題について話をした際は、市内にある企業と市の財政との関係などが中心でしたが、副知事との会話では主に日本企業の中長期展望とそれに伴う雇用の話が中心でした。同じ日本企業に対することでも、市レベルの人と、州レベルの人では、検討していることが顕著に違うことが非常に興味深く感じられました。

### ジョブズオハイオでの発表

午前中に副知事を訪問した後、ジョブズオハイオにも訪問してきました。ジョブズオハイオとはオハイオ州で企業誘致活動を支援している団体で、2011年に民営化され、日本など多くの国にオフィスを持つ国際的な組織です。日本とも関わりが深く、日本企業をオハイオに誘致する際多くの役目を担ってきました。

当日はオフィスの一角をお借りして、一年間のインターンで得られた知見についてプレゼンテーションしました。プレゼンテーションでは、インターンを通じて感じたことや疑問点、文化的問題などを中心に発表しました。また、4月の学会で発表した内容などについても触れ、意見をいただきました。



### フィンドレーでの一年を振り返って

#### 大学での講義を通して

私は、前期はインターナショナルクラスを、後期は学部授業を、それぞれ週三日受けてきました。インターナショナルクラスの初日、周りにはサウジアラビアや中国、インドなどいろいろな国から来た生徒がいて、自分はこの人達についていけるかと不安に思った記憶があります。彼らは私と違い、一年以上フィンドレーで過ごした人が多く、クラスが始まった時点で既に差がついており、非常に不安でした。しかし先生や彼らが優しく助けてくれ、また分からないことにも相談に乗ってくれたため、この不安も1か月も立たない内に消えていきました。不思議なもので一度不安を乗り越えてしまうと波に乗るのか、授業内でも積極的に発言できるようになっていきました。もちろんはじめの頃は文法や語句はひどい有様でしたが、日本人特有と言われるシャイで発言できない状態を脱する事ができるようになり、前

期が終わる頃には先生ととともに会話できる程度にはなっていたかと思います。

後期は、ステップアップのため、アメリカ人大学生に混じって学部の授業を受けていました。こちらも周りの助けを借りて何とかついていけるようになりましたが、まわりがネイティブスピーカーなのでディスカッションなどでは非常に苦労しました。また、学部の授業を受けたことで、実際のアメリカ人大学生の現状を知る機会が得られ、同じ大学生でも日本の大学生と大きな違いがあることに気が付きました。そもそも大学に対する考え方に大きな違いがあります。日本では大学が半ば「就職予備校」になりつつあり学業が疎かになっている風潮がありますが、アメリカでは大学は正に「学びの場」であり、企業で働いている人も多く学んでいます。そういった側面からか勉強に対する考え方も大きく異なります。テスト期間以前でも勉強に励み、テスト期間になると大学中のすべての机が学生で埋まるほどに皆勉強に励んでいました。日本の大学にも熱心な学生はいますが、アメリカの大学の様な状況にはなく、非常に衝撃を受けました。

私は、インターナショナルクラスでの講義を通じて英語に対する障壁を取り払うことができました。これはひとえに私を助けてくれた友人たちのお陰で、学部の授業を最初から受けていたらこれ程上手ならなかったのではないかと思います。またインターナショナルクラスで授業を受けるだけではわからなかったであろうことが学部の講義を受ける中で色々と見えてきました。こちらも非常に大変でしたが、友人の助けや先生のお力添えにより乗り越えることができました。貴重な体験をすることができ、帰国した今でも非常に感謝しております。

## インターンを通して

ニッシン・ブレイキ・オハイオでのインターンでは、今までのレポートで書いてきたように多種多様な経験をさせていただくことが出来ました。当初日本ではまだアルバイトしかしたことがなかった自分がいきなりインターンを一年間、しかもアメリカですというのは非常にハードルが高いと感じていました。実際、アメリカに来てインターンを始めてみると言葉の違いや仕事の専門性など多くの壁にぶつかり大変な思いをしました。英語が分からなくてミスを起こすことも多く、最初のうちはインターンが非常に憂鬱で行きたくないと思うこともしばしばありましたが、オフィスの上司やエンジニアの助けを借りなんとか食らいついていくことが出来ました。

色々な要素が絡み合う日本企業のアメリカ法人において、アメリカ人と日本人のエンジニアたちの下で働けたことは大変貴重なことであり、普通のインターンでは決して見るような状況を観察したり経験したりすることができました。互いの文化の差を背景とするコミュニケーション上の課題は大学の講義や文献などからでは理解し得ず、実際に経験してみないと原因や問題点などは分かりません。この体験は将来の自分にとって非常に大きな財産になると同時に、自分の将来進みたいと考えている道について深く考えさせるものとなりました。



ニッシン・ブレイキ・オハイオのエンジニア達と

## 最後に

この一年間のアメリカでの生活を通してかけがえのない貴重な経験を得ることができました。これはひとえに協力して下さった埼玉県、フィンドレー大学の先生方、ニッシン・ブレイキ・オハイオの皆様のお力添えによるものです。ありがとうございました。今後、何らかの形でこの経験を還元したいと思います。

末筆ですが、今回お力添えを頂いた皆様に重ねてお礼を申し上げます。